



vol.65

2017年
2月28日
発行

日本山岳会

「高尾の森」通信



—小下沢風景林の森づくり活動—

会員数:206名
(2017.2.14現在)



カントウカンアオイ

日本の固有種で関東地方・東海地方東部が原産地の小型の多年草。ハート形の大きな葉を地に伏せて、その根元に先端が三つに裂けた小さく堅い筒状の花(萼筒)を咲かせる。実は花に見える部分は萼(ガク)で花弁は退化して無い。

<http://JACtakao.net>

February 2017 01

小下沢 NOTE 冬

12月定例作業

新しい作業地の調査も楽しい。

A班 間伐練習も経験者が指導



B班 新しい作業地の道づくりに一生懸命です



C班 みんなで協力してたくさん切りました、間伐の「神」降臨???



2016年11月26日の紅葉鑑賞会も盛況(総勢148名)でした。その時の様子はドローンでも撮影されました。ブログをご覧ください。

忘年会。2件のお店を借りて盛況でした。



精一杯みんなで頑張ったあとは「ごころうさん会」で大盛り上がりです。



1月定例作業

作業を終えての帰路もまた、楽し。
ベースに帰れば「あったかい甘酒」
が待っています。



アルコールありとなしの2種類。さすがです!



2月定例作業

道具小屋前は残雪が多く木々に着雪し
満開のさくらの花のようです。

D班
元気に出発!

作業後には
キッチン班代行による
心温まる「おしるこ」が。

もくじ

小下沢NOTE	02
彼の森を想う	04
こげさわ佇む草花・TOPIX	05
とある木曜日の朝8時すぎ	06
森の研修会	08
知っていると便利	09
ラオスプロジェクト報告	10
会員紹介	10
幹事会報告	11
事務局からのお知らせ	12



彼の森を想う

東京神奈川森林管理署長 鶴園重幸

この世界に入り三十数余年が過ぎた。この間、各地で色々な森づくりに関わったが、寄稿という良い機会を得たので、振り返りつつ南国と北国のものを紹介してみたい。

さて、はるか昔、日本は多くがタブやシイなどの照葉樹林で覆われており、我々の祖先はこの森とともに暮らしていた。日本特有の文化は、その基層に照葉樹林を置いて考えると納得できるところも多い。しかし、今や原始的な照葉樹林は僅か数%が残るだけになっている。

南国の九州では、綾プロと略称する照葉樹林の維持・復元計画を立ち上げた。原始的な照葉樹林が分断されながらも有数の規模で残っていた綾の国有林を核に、国有林、宮崎県、綾町、日本自然保護協会、NPOのてるはの森の会の5者が照葉樹林の維持と復元に協働する。しかし、対象エリアは総面積1万haと広大。維持はともかく、復元には最低でも数十年の取り組みが必要。息の長い取り組みを如何に担保するか。思い悩んだあげく行き着いたのは、綾プロの意思決定に関し、国連の常任理事国のような拒否権を5者に等しく持たせるということだった。こうすると、良く議論しなければ何も進まないから、常に良く議論しようとする。そして合意した方向では各々が責任を持って協働する。この仕組みを連携会議として綾プロのエンジンに据えた。

綾プロは発足の準備段階からTV、新聞に良く取り上げられていたが、突然、NEWS23でも紹介されて驚いたことがある。後日、キャスターの故筑紫哲也さんらが訪れ、夜は一献傾けて楽しく語らえた。それから10年を超える活動が続き、数年前にはユネスコのエコパークにも登録された。思い出は尽きないが、着実に照葉樹林が復元されつつあることだろう。

北国の北海道では、イトウのための森づくりに取り組んだ。イトウとは、サケ科の魚で、1mにもなる巨大な淡水魚である。かつては広く生息したが、今では絶滅が危惧されている。海から川を遡り、上流の清廉な川底に産卵するが、この場所は奥まった森林の中となるから、森林施業の影響を受けやすい。このため、保護を訴える人の中には、森林施業を頭から否定する人もいる。しかし、産卵場所のトドマツ等の人工林は間伐の必要な時期に来ていた。この人工林を健全に育成できなければ、結局、河川も豊かなものとしては維持できず、イトウのためにもならない。

そこで、保護団体や生態の専門家を訪ね、意見交換等して、イトウの保護も森林施業も成り立つところを探っていった。そして、①対象河川を指定、②対象河川沿いの国有林に保護区域と緩衝区域を設定、③産卵・孵化期間の森林施業、土木工事は不可等とした。また、ダムに魚道を設けたのに魚が遡上しないと聞いた話は今でも聞くが、この時もイトウに良からうと工夫した施設の形状等が全く駄目だと気づかされたことがあった。これらも成果として、例えば土木工事でのコルゲート管と水たたきの適切な配置、形状等も整理した。

ところで、これらは通達にまとめ基本的にオープンにしたが、生息域の保護の観点から対象河川だけは非公開とした。このことが、マスコミのみならず、他省庁等の関心も引くこととなった。我々の事業でも配慮したいので、是非、対象河川を教えてほしいと。私は、日本最北の村である猿払村で見かけたイトウを鮮明に覚えている。産卵期、大きな体を赤橙色に染めた雄が水深1mもない浅場を悠然と泳いでおり、よく見るとその傍には雌もいたからだ。勿論、この目でイトウを確認した河川は対象にした。しかし、北海道は広く、河川も多い。全部をこの目で見るのは無理だ。実は、教えてほしいと来た他省庁等が行った調査結果も参考にしながら、広く文献を調べて対象河川を選んでいったのである。

今は遠きにあり、しかし、気になる森は他にもある。いつかは、これらの彼の森をもう一度訪れ、ゆっくりと森と話をしてみたい。

Miyazaki
AYA town

こげさわ佇む草花 ～春への誘い～

「カタクリ」 古名：かたかご、陽光の木漏れ日を受け、
北斜面にひっそりと咲く、氷河期の生き残り植物。

もののふ やそ かたかご
「物部の八十おとめらが汲みまがふ寺井の上の堅香子の花」

＜万葉集：大伴家持の歌＞と詠まれた氷河期から万葉の時を経て
現在にいたる悠久の歴史を生き抜いてきたカタクリに
心して接したいと思う。

横川信由



TOPIX



三宅島の佐久間さんより
送っていただいた「サル
トリイバラ」を使用して
C班吉田さんが12月に
「いけばな」と「リース」
を作成しました。



法人会員「富士電機(株)」様の東京工場記念館(日野市)
に11月29日に有志会員13名で見学に行ってきました。



冬の風物詩、小
木沢の氷の芸術
が1月中旬にな
って「あずま林
道」沿い溪畔に
あちこちで見か
けることができ
ます。



「結婚しました！」
会員の徳永拓之
さん(A班)と
永井(徳永)有
希さん(B班)
が結婚しました。



とある木曜日の朝 8時過ぎ

小屋の周辺に人の気配が……



すでに
第一陣が到着
している？



ベンチの掃除
も済んで小屋
の前がきれい



9時
第二陣が到着



今日は寒い、
ストーブの
煙の中で
ひと休み



9時半になる
前に外へ。
この日は外気
2℃で特に寒
いが作業準備
開始



薪運びも
大切です



在庫の
中から
材料探し



いつもの
トイレ掃除も
テキパキと



斧の名人、
薪づくり



10時前
いよいよ
作業開始
です



何を
作ろうかな



サイズは
あって
いるかな



薪補給も
大切な
仕事です



10時すぎ
第三陣が到着



11時
電動丸鋸の
使い方注意



バターナイフ
作ってます



完成品



作業に夢中



材料搬入を
みんなで
受け入れ



12時
昼休み



みんなで
楽しい
ランチタイム



12時半

午後の
作業開始



13時すぎ

作業も
はかどり



14時

片づけ開始



作業終了



14時半

忘れ物は
ないかなあ



そして小屋の
周辺も人気が
なくなり、
今日も一日が
暮れてゆく



と思いきや
高尾駅北口前に
いつものように
出没

こんな調子で
毎週木曜日は
終わっていきます



ものづくり小屋管理班
リーダー 宮本正彦さん

「ものづくり班の1日」でした。



私のお気に入り 日比野克彦

浦松佐美太郎の『たった一人の山』のなかに『山靴』という短編がある。スイスの山旅を終えた作者がゴッホの展覧会で目に付いたのが

靴の絵であった。靴と言っても山靴ではなく百姓靴である。親しみのこもった心で描かれたこの絵が山靴を大事に思う作者の心を揺り動かしたのであろう。

激しい運動を共にする靴に対しては他の道具と違った感情が湧いて来る。山登りに使う物の中で靴に最も愛着を感じる。受験勉強から開放され、ワンダーフォーゲル部で山歩きを始めた。最初キャラバンシューズを買って鈴鹿や南アルプスの山々を歩いた。キスリングザックに米の時代である。1日3合の米を2週間分その他で荷物は40Kgにもなった。年間100日も山に入った。キャラバンシューズは1年くらい履きつぶし、革の登山靴を購入した。学生の財布で購入でき

る程度の革靴でもソールはビブラムであった。当時は革の登山靴のことをビブラムと呼んでいた。ビブラムを買ったときのワクワクした嬉しさは忘れられない。急に山のベテランになったような気持だった。それから50年以上 その間いろいろな山靴のお世話になった。最近では縦走や岩稜歩きの自信がなくなってきたが7年前からはじめた森づくりならまだ続けられそうだ。

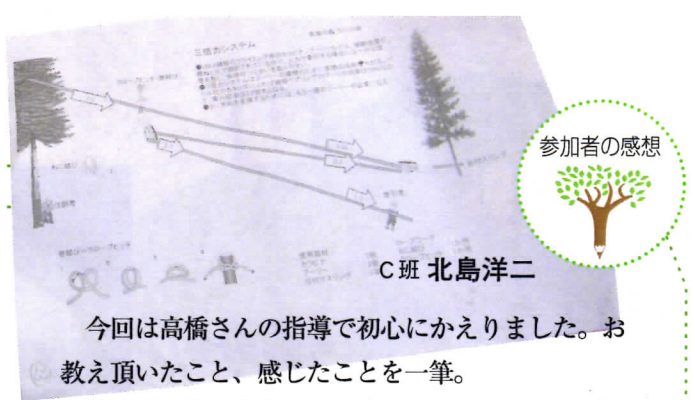
誕生日に山靴を新調した。ビブラムソールの靴である。初めて靴を買った時のようにワクワクした気持だ。森の作業でも靴にこだわりたい。森の樹木に敬意を示す意味でも気に入った山靴で参加しようと思う。



森の研修会 「間伐講習会」

平成28年12月3日(土)

講師：高橋賢次



参加者の感想



C班 北島洋二

1. 目的：間伐作業に関する理解を深め、作業技術や安全性の向上を図る。

2. 日時：2016年12月3日(土) 9:30～14:45
9:30 ベース小屋に集合
9:30～10:20 板当201へ小班に移動
10:20～11:10 座学(板当201へ小班にて)
11:10～11:45 ロープワーク実習
11:45～12:20 昼食
12:20～14:05 間伐実地研修
14:05～14:40 ベース小屋に戻り、解散

3. 場所：板当201へ小班のD班エリアで座学と実地研修

4. 参加者：鈴木美代 北島洋二 廣瀬英彰 青木亨 河野悠二
小山圭司 馬場隆博 高橋賢次(報告者)

5. 研修内容

座学(10:20～11:10)

- (1) 当会の間伐指針について(読み合わせ)
- (2) 安全技術マニュアル7.7 間伐(読み合わせ)
間伐の目的、進め方などについて
- (3) 伐倒について
安全技術マニュアル8章 伐木造材(読み合わせ)
伐倒前確認、木の状態観察、作業場の整備、
伐倒手順、その他ロープワークなど

実地研修

ロープワーク研修(11:10～11:45)

台付ロープ等を用いて、ねじ結び、まき結び、もやい結びなどを繰り返し練習したほか、三倍力システムの作設を実習。

伐倒実地研修(12:20～14:00)

座学の内容に沿って、実際に5名が伐倒を体験した

今回は高橋さんの指導で初心にかえりました。お教え頂いたこと、感じたことを一筆。

学習その①「安全作業の第一は？ 切る事よりも、まず逃げる事。」●退路の確保。どちらに逃げるかのルートに、頭を使い、谷側に逃げてはならない。切って倒すよりロープで引き倒すのが理想かも。●足元をクリアにする。跳ね上がりそうな丸太を退かし、足を取られそうな枝葉を片付ける。運動能力に偏らない転倒防止を。●周囲の幹に注意を。逃げる時に尖った枝で顔を突いてしまうようなら、予め切っておくのも手かと。

学習その②「助けになる小物(アイテム)は自分で考えて。」●笛：木を倒す時以外にも、視界のきかない森の中で、連絡手段に役立つのを見ました。実は私、この数年で徐々に難聴が進んでしまって、迷子や負傷など緊急時を考えると、「笛」一つでずいぶん違う。●チョーク：水平や倒木方向、切り口の大きさ等。斜面での錯覚を自分でも修正しながら。また、どう切るかを周りの人とコミュニケーションするためにも、役に立つ。●ロープ：ロープワークについては道程遠しです。が、ヨットマンズツールを使った縄ワザを見せて頂きましたが、一番重要なことは、「道具の工夫は自分で考えよ」ということを強く感じました。

今後の新たな宿題は、「テコの技と、用具貸出の確認」ですね。



また、よろしく
お願い致します

ほかにも

- 伐倒作業は体験しているが体系的に伐倒技術を学んだのは初めて。
- 一連の工程(伐倒木の選定から、伐倒方向の決定、鋸挽きなど)を任されて行ったのは今回がまだ二回目なので良かった。
- ロープワークは忘れやすいので、反復練習が大切だと感じた。
- 現地まで遠いので体力を温存できないと、きちんと伐倒作業することが難しいと感じた。
- チョークの目印に沿って鋸引きする方法は判り易くてよかった。

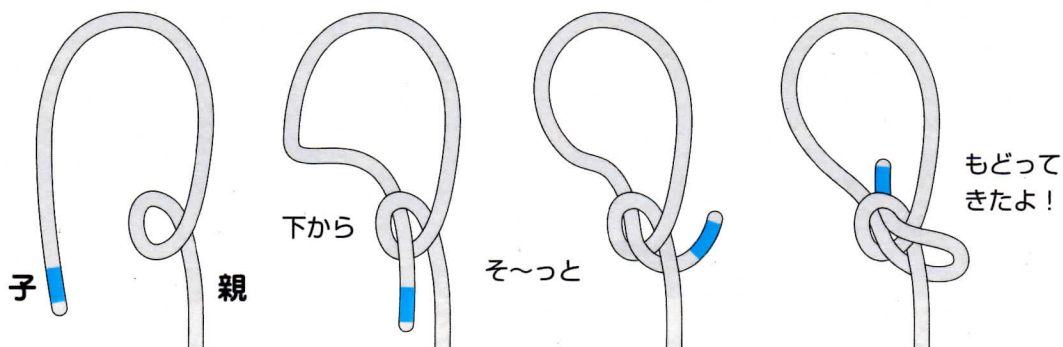


1 もやい結び / スタンダードな万能結び

キング・オブ・ノット（結びの王様）と呼ばれる基本中の基本。木やフック、バケツなど何かにロープを結び付けるときに使う。最終的には輪を作る形になるが、この輪は絶対に締まらない（小さくならない）ので、人命救助の際にも使用。

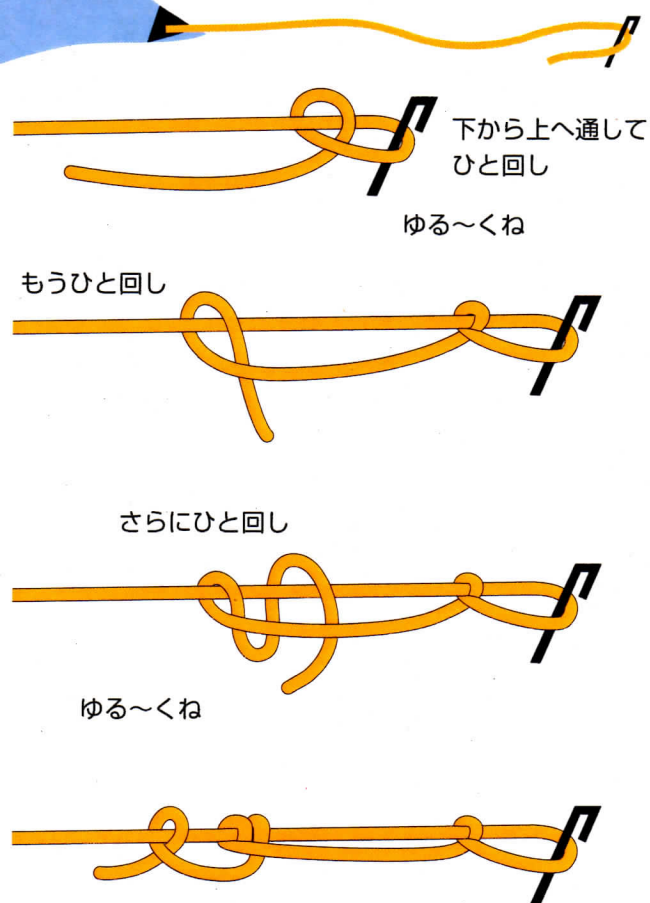
親のフトコロに
子どもが
もぐりこみます

※ロープの重なりかたや
方向を観察してください。



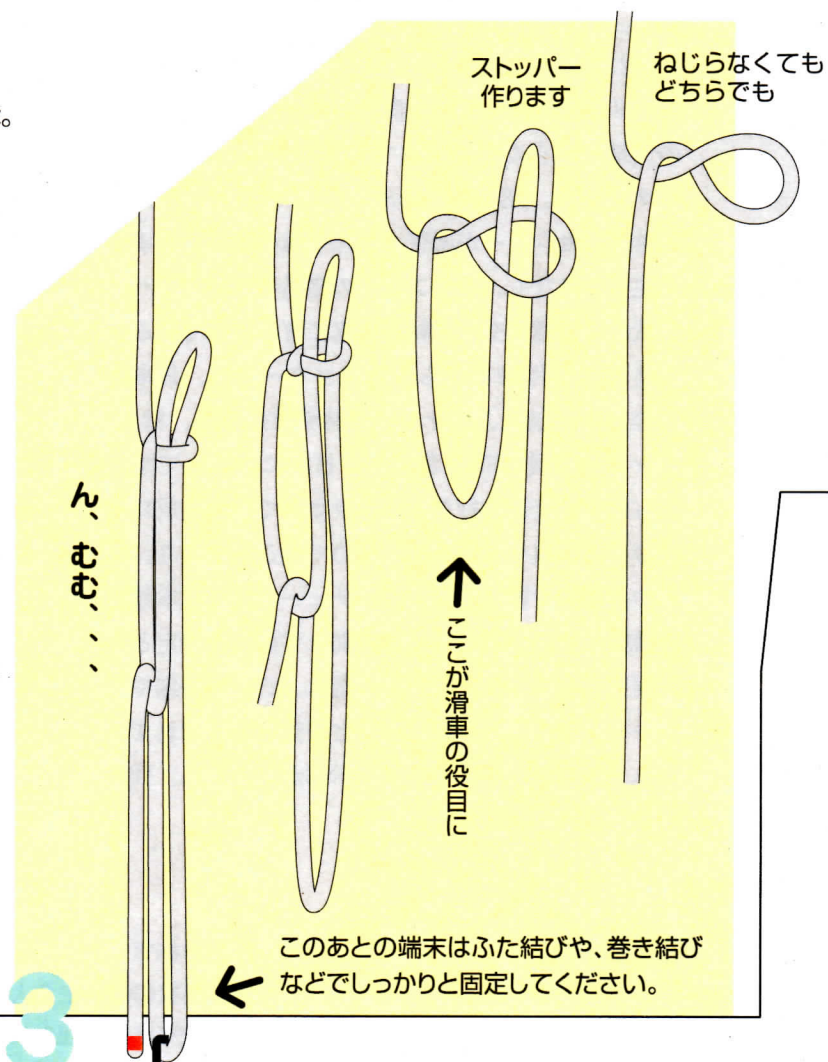
2 自在結び / 調整可能な便利結び

テント用の自在金具が無い場合はこの自在結びが便利。最初の結びをペグなどに引っ掛けて2番目の結びを動かすことで、長さや張りの調整が可能。



スライドする輪ができました

知っていると便利な 3つの ロープ結び



3 トラックズヒッチ / 荷物固定には最適

トラックの荷台に積んだ荷物を固定するための結び方。とりあえずロープを回し、フックにかけてからロープの張りを調整。輪が滑車の代わりになるので倍の力でテンションがかけられる。

ラオスプロジェクト最終報告 期待される日本の支援



日本-ラオス友好の森展示林造成プロジェクトは、今年で通算6年目を迎え、7月に植林ツアー、1月に間伐ツアーを行った。植樹祭の参加者数は年々増加し、今年は日本から12名（内会員6名）、ラオスから23名、活動人員延べ180名での活動となっている。3班に分かれて郷土樹種の苗木を焼畑跡の赤土の大地に植えた。これまでに植栽した累計は、23ヘクタール、18樹種2万8000本にのぼる。ラオス森林研修センターが所管する保全林内で、いわゆる早生樹ではなく、シタンなどの高品質材によるパッチ状の異樹種混交の森林が確実に育ってきている。

また、1月29日からの間伐ツアーでは、日本からの12名に加え、ラオス大学林学部の学生、村人、センター職員の計35名が、3日間にわたって熱の入った技術交流を行なった。ラオスで森林造成に間伐の手法を取り入れるのは初めてのことであり、間伐の必要性や密度管理手法、チェーンソー伐木技術の講座、実際の現地で2班に別れて標準地設定と間伐調査、保残木及び間伐木の選木、日本式手鋸やチェーンソーによる伐倒作業などを行った。これまで6ヘクタールの間伐モデル展示林が造成され、間伐効果の検証が期待される。

ラオスはもともと森林国であり、焼畑で大きく減少し荒廃した森林を、元の森林に戻すプロジェクトを国民運動という形で始めているが、予算の制約など諸々の課題を抱え、必ずしも順調とはいえない。日本のボランティアによるこのイベントに大きな期待をかけていることが実感される。

植樹祭には地元村落や生徒だけでなく、森林局や地方の森林部局の職員も多数参加し、その模様がテレビや新聞で大きく報道され、また、今回の間伐ツアーに参加したラオス大学生は、森林局勤務の若手の職員で研修としてラオス大学に派遣されている方々であったことなどもその現れであろうと思う。真剣に作業に参加されていたのが印象的であった。日本の間伐技術を学び、行政に生かしていただけるものと期待は膨らんだ。最後の夜のパーティでは両国の歌も出て大いに盛り上がった。

当会のプロジェクトはこれで終了となるが、植樹運動や間伐手法の導入による良好な森林造成へ向けて日本の支援が期待されており、いささかなりともそれに応えることができたのではないかと思います。

龍 久仁人



会員紹介シリーズ⑧
中林 範子

将来は人の入らない山奥で
霞を食べて生きていきたい!

中林です。道具班に所属しています。

高校の同級生3人と5年位前から世話になっています。私たちの故郷は山に囲まれています。川にも恵まれたとても景色の良い所です。釣り好きの知人がパラダイスと言っていました。子供のころは山や川、雪の上で存分に遊びました。今も自然の中で遊ぶのが大好きです。最近では泳ぎに夢中で水戸の那珂川で遠泳したり二俣尾で泳いだり1月には寒中水泳もします。高尾の森の活動のことを聞き「これだっ」とびつきました。自然の中で身体を動かすのが楽しくて参加しています。よろしくお願いします!

幹事会報告

第七回

12月5日 18時30分～20時40分
会場／日本山岳会 市ヶ谷会議室
参加人数／幹事12名 監査役2名
オブザーバー／小南
議長／松川
書記／高橋

協議事項

1. ラオス植林プロジェクト継続について (代表)
2. 高尾599ミュージアム展示会 (代表)
3. 八王子都立滝山公園の管理委託について (代表)
4. 個人年会費振込み手数料とスポーツ保険手数料
会負担の提案 (湯川副代表)
5. 管理署との協議報告 (馬場副代表)
6. 作業リーダー会報告 (事務局長)

第八回

1月10日 18時35分～20時45分
会場／立川市女性総合センター
参加人数／幹事12名 監査役2名
オブザーバー／守永・小南
議長／松川
書記／日比野

議事

1. ラオス植林プロジェクト継続について (代表)
2. 201林班ほ小班への取組み (馬場副代表)

協議事項

1. 八王子市観光課との打ち合わせ
 - ① 高尾599ミュージアム展示会 (代表)
 - ② 八王子都立滝山公園の管理委託について (代表)
2. 総会までのスケジュール (案) (事務局長)

報告事項

1. 安全管理体制 (馬場副代表)
2. 植樹祭に向け林道の整備 (馬場副代表)
3. 管理署への提出資料及び活動計画 (馬場副代表)
4. 提出資料 (湯川副代表)
日本山岳会への支部事業計画書・予算書提出の件
5. 予実報告 (4～12月末) (湯川副代表)
6. 年間スケジュールの確認 (小山幹事)

第九回

2月6日 18時30分～21時15分
会場／立川市女性総合センター
参加人数／幹事12名 監査役1名
オブザーバー／小南
議長／松川
書記／松隈

協議事項

1. 総会日程 (事務局長) 6月17日 (土) で決定。詳細は後日。
2. 年会費納入の変更 (湯川副代表)
3. 第二回育樹祭概要 (川久保幹事)

報告事項

1. 高尾山599ミュージアムにて3月30日～4月5日まで、
「弊会の展示会開催」(事務局長)
2. 第18回 三宅島緑化プロジェクト (石井監査役)
5月19日～21日 (18日22時乗船)
3. ラオス活動報告 (馬場副代表)
今回が最終となるが、新たな団体にて継続していく。
4. 管理署許認可の報告 (馬場副代表)
5. 都有林申請報告 (日比野幹事)
6. 滋慶学園への対応 (大森幹事)
7. 森の研修会 (高橋幹事)
3月4日、19日の2回実施「安全について」(松隈講師)
8. 新会員の勧誘活動の提案 (小山幹事)

事務局からのお知らせ

主な作業・行事記録

12/3	森の研修会	8人
12/10	定例作業	106人
1/14	定例作業	92人
1/28	チェーンソー研修会	7人
1/29~2/2	ラオス展示林造成プロジェクト(間伐)	12人
2/11	定例作業	75人

高尾の森の生き物たち

「高尾の森づくりの会」の展示会が下記の日程で開催されますのでお知らせします。

会場：高尾山599ミュージアム
 日程：3月30日(木)～4月5日(水)
 10時開始
 概要：①高尾の森の生き物たち(映像)
 ②森林活動写真の展示
 ③横川コレクション展示

ミニ講習会 4月2日(日)11時20分から
 山崎さんが講師となって
 森の様子を教えてください。

今後の主な作業・行事スケジュール

3/4	森の研修会
3/11	定例作業
3/25	チェーンソー研修会
3/30~4/5	「高尾の森の生き物たち」 (高尾山599ミュージアムにて会のPR活動)
4/1	臨時作業
4/8	定例作業/京王親子森林体験スクール
4/9	第2回 育樹祭
4/22	滋慶学園
5/13	定例作業/京王親子森林体験スクール
5/18~21	第18回三宅島緑化再生活動
5/20	滋慶学園
5/27	チェーンソー研修会

- *ものづくり・小屋管理班 毎週木曜日&第三土曜日
- *道づくり班 偶数月第四土曜日
- *生態調査班 毎月第一水曜日

第18回 三宅島緑化再生プロジェクトのご案内

日程●5月19日(金)～21日(日)(18日22:00乗船)
 作業内容●植樹、巨樹への散策路開墾、甌の穴整備
 参加費用●27,000円(旅費、宿泊代、島内バス代を含む)
 申込み先●石井倫行 ishiim@mvh.biglobe.ne.jp
 TEL/FAX●042-471-2773
 申込締切●4月15日(土)

会員の動き

お疲れさまでした
退会 阿部孝一さん
 ようこそ
今井志有人さん・後藤健太さん
 (2016.11月入会)

平成29年度 年会費振込みのお願い

新年度の会費・保険料の納入をお願いします。保険の一括加入手続きを3月中に行いますので、3月21日までに払込みをお願いします。

他の団体等でボランティア保険に加入する場合は、その団体名等を払込票に記入してお知らせ下さい。重複加入はできません。また機械作業登録者のスポーツ保険の保険料は、新年度より会で負担いたします。対象者は機械作業登録を継続するか否かを払込票にてお知らせ下さい。

なお、この保険は会で行う作業等のみが適用対象で、それ以外には適用されませんのでご注意ください。

	年会費	保険料	合計
賛助会員	3,000円	---	3,000円
一般会員	3,000円	500円	3,500円
家族会員	2,000円	500円	2,500円
学生	1,000円	500円	1,500円

納入には郵便振替をご利用ください。

- 口座記号番号 00160=3=0688239
 - 加入者名 日本山岳会「高尾の森づくりの会」
(銀行振込の場合)
銀行名 ゆうちょ銀行019(ゼロイチキュー)店
預金種類・口座番号 当座預金 0688239
- なお、会報に同封したゆうちょ銀行払込取扱票により納入の場合、払込料金は会で負担いたします。

編集後記

今年の冬は格段、寒さが厳しいようです。近年、暖冬ばかりでしたので寒さが身にしみます。会報編集については会員のみなさまの顔が見え、声が聞こえるような企画を掲載したいと思っていますのでたくさんの、ご意見・原稿投稿をお願いします。(小山)

